

実践事例 複合施設の運営

根津総合センター施設長
山川勝彦

まず最初に

ワーカーズコープに入るきっかけ

若いころ、某区の児童館の非常勤職員として8年館勤務
退職後、4年間全く別の業種で仕事をしていたが、家族が
もう一度児童館に仕事に戻ってみたらという言葉で新聞広告で
児童館、学童クラブ職員の募集見つけ応募する

**2006年8月16日 ワーカーズコープが委託運営する
児童館の非常勤職員として入団、入職**

当然児童館で働いていたので児童館は知っていた

が

学童クラブが何なのかを知らなかった

その時初めて

学童クラブとは何かを知る

これをきっかけに

「学童クラブとは」を学んでいくことになる

公設民営化が進んでいく中で

この頃から、行政が区営の児童館や学童クラブだけでなく高齢者の施設なども、徐々に民間に指定管理、委託業務として任せるようになってきた

当時、自分自身が知らなかっただけかもしれないが、高齢者のための施設があることを知る

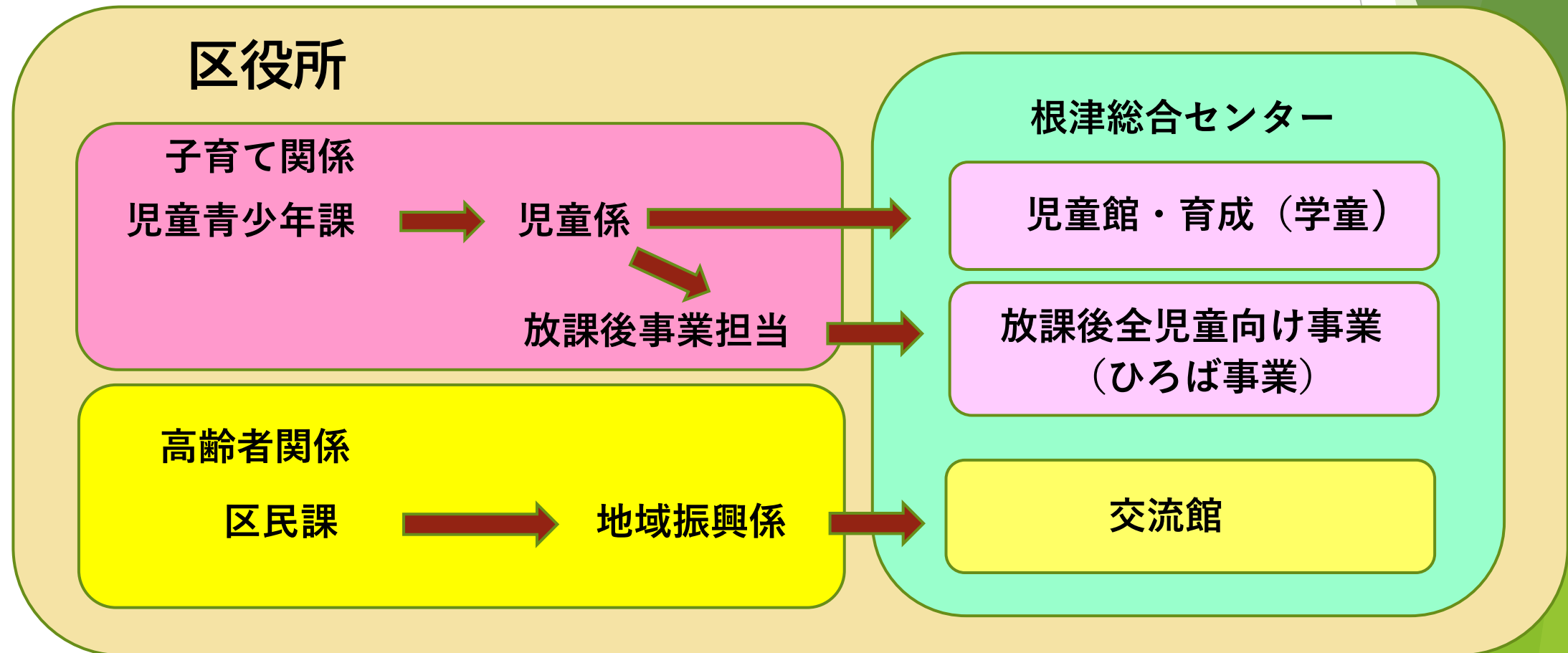
実際、自分だけでなく一緒に働いていた組合員でさえ知らない事だらけであった

行政は、はっきりとした運営方針がないままに民間に運営を任せようとしていたように思われる

子どもの施設と高齢者の施設では、行政内で管轄が違うためなかなか話がまとまらなかった事も一つの要因である

複合施設の運営・・・1

○行政の管轄が違う



管轄が違うために

各事業についての対応が重要 運営内容把握

- 1.特に行政とのやり取りに関しては、事業によって報告や連絡が違うので、メモをとることや各自への伝達は、早め早めに行うようにしている
- 2.工事や修繕などは、各自事業が行われているため、スケジュールを合わせるのが難しい
- 3.経費については、各事業と全体を同時に見ていきながら運営を行うようにする
- 4.各事業によって業務の変更などがあるため調整が大変
- 5.会議や運営協議会も、事業によって報告内容が違うため行政と事前にすり合わせを行う

結果、行政自体が各課でのやり取りが無いので、間に立たされてしまうことが多い

4年前の事業所の様子から

学童クラブの体制が整わない・人が安定しない

そんな中での放課後全児童対策事業としてひろば
事業の立ち上げ

当然、各現場組合員は必至での運営

不満・疲弊

自分達の事業運営だけで
手がいっぱい

業務要求水準が
満たせていない

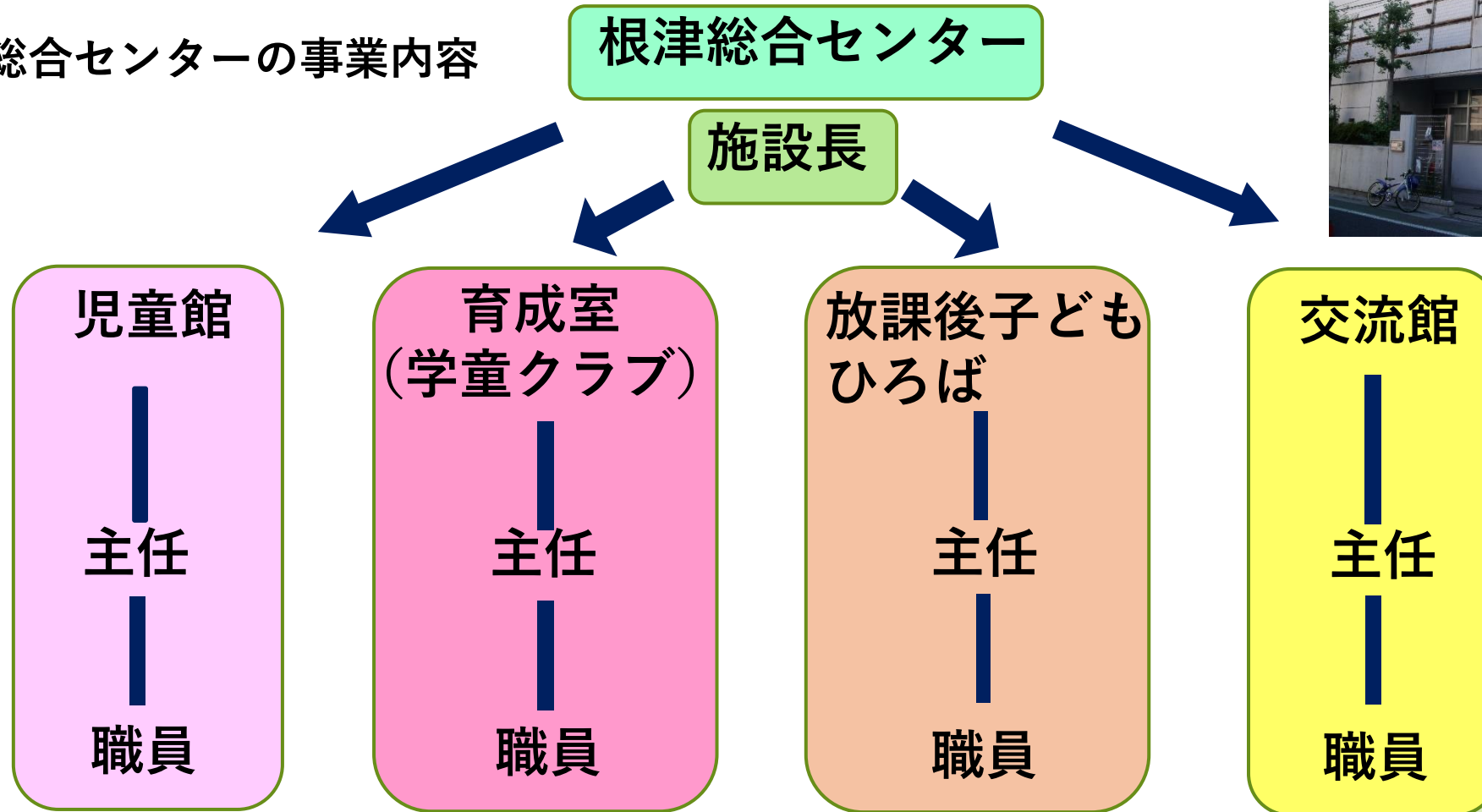
よい仕事はしているのに

所管からの目は厳しくなるばかり

なぜ故そうになってしまうのだろう？

複合施設の運営・・・2

○根津総合センターの事業内容



全体で32名程就労

事業が違うのと、人数が多いため、お互い顔も名前も知らない人がいる

複合施設の運営・・・3

○事業が多い故の困難

情報の共有

意外と現場で困っていることではないでしょうか！

出勤日数が少ない人！ 休みだった人！ から

- 聞いてない、知らなかったをなくす
- お互い声を掛けられる現場にする

誰もが分かるように

ミーティングの記録を取る
書類・マニュアルを揃える

意識をすることにより

それを

誰がやるではなくみんなでやる

それが円滑な業務へと繋がるのでは

聞いてない！

知らなかった！

体制が整うと！

組合員の気持ちにゆとりが

- 仕事への緊張感はあるが、妙なピリピリ感が感じられなくなった。
- お互いの事業に目を向けられるようになった。
- 仕事の分担化による負担の軽減。
- ミーティングが長くなった。

ミーティングが長くなった理由

- 以前よりもお互いの視点から子どもたちの情報を交換し共有するようになった。
- 今日やるべきこと、やる事、流れなどを共有してから業務に入る。

複合館だからこそできる違う事業との連携

- ひろば事業は、総合センターと小学校と併設であるため同じ敷地内にある。
- 児童館内学童のひろば事業への参加。
- 交流館との共催事業がやれ多世代交流ができる。

組合員の頑張り、各事業との連携、運営委員の方々への信頼に繋がった

複合施設の運営・・・4

お互いが意識できる関係へ

- 各事業やるべきことが決まっている
- 子育て3つ、高齢者に分かれている
- 各事業それぞれに主任がいる（4主任）
- 各事業によって考え方が違う

これにより何が起きるか



各自が事業の守りに入る



意見の違いによる無意味な対立

そもそも違う事業

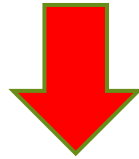
意識を変えなければ



常勤・非常勤関係なく
まずは話をする、聞く

- ・働き方・困りごと
- ・やりたいこと等

個別から



協同へ

- 取りあえず話をしよう
- 共通点、方向性を見つけよう
- 複合と言えども施設は一つ
- 一緒にやってみよう

主任会議・常勤会議を開く



お互いの思いが見えてくる



共催による行事の設定

次第に協同へ

複合施設の運営・・・5

○総合的な意識へ

主任会議

- 各事業で困っていること
- 各事業でやるべきこと



常勤会議

- 協力と方向性
- 各自困っていること
- 各自やりたいこと



団会議

- 経営状況の報告
- 本部などでの
会議・研修報告
- 各事業からの
運営状況報告
- 今後へ向けて

複合施設の運営・・・6

○地域の中で

地域の居場所としての役割



保育園

地域の方々を巻き込んで

地域に根ざした施設として

民生委員



高齢者



幼稚園

学校

地域の方々と顔見知りの関係に

交流館事業



【おもてなし英会話入門】
外国の観光客が多くよく道を聞かれるという声を聴き英会話講座を開催。



【スマホ・タブレット・ガラケーなんでも相談会】。
ご自分の機種を持ってきてもらいなんでも相談できます。意外とガラケーの相談が一番多かったです。

多世代交流事業



〈おもちゃ病院〉

交流館をお子さんと利用される
ママたちからの希望でおもちゃ
の修理をしてもらいたいという
ことで実現した企画です。



〈総合センターまつり〉

児童館・交流館・育成室・ひろばみ
んなで作り上げています。

取り組みとして

- 長く働き続けたい現場づくり。
- これからもしっかりと向き合って話をする
- どうすべきか方向性を持ち皆で共有し実行する。
- 新しい人材の育成。
- 他現場、事業所との連携、協力体制。
- 地域との協同

ご清聴ありがとうございました